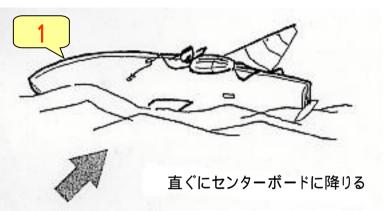
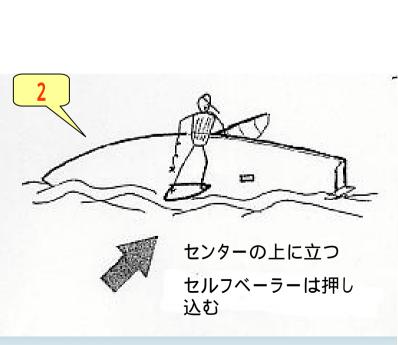
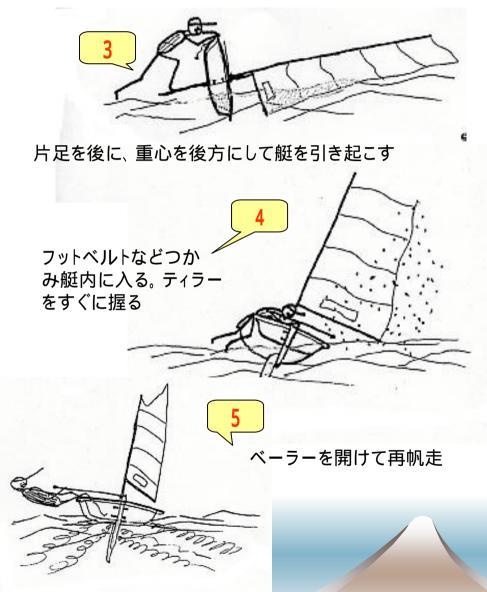
# ディンギーの セーフティー・ハンドリング

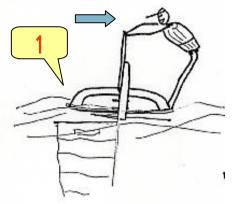
江の島安全講習会資料(2004/5/23)

この資料はJ-Sailingに掲載された中から著者の 福島挙人氏の許可を得て神奈川県セーリング連 盟で編集したものです

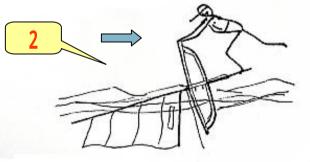




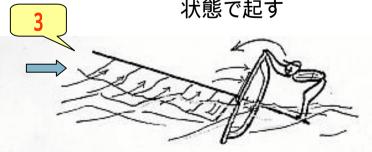


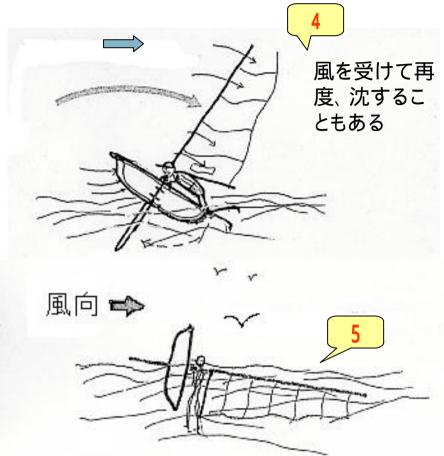


セールが風上の 状態で沈をする

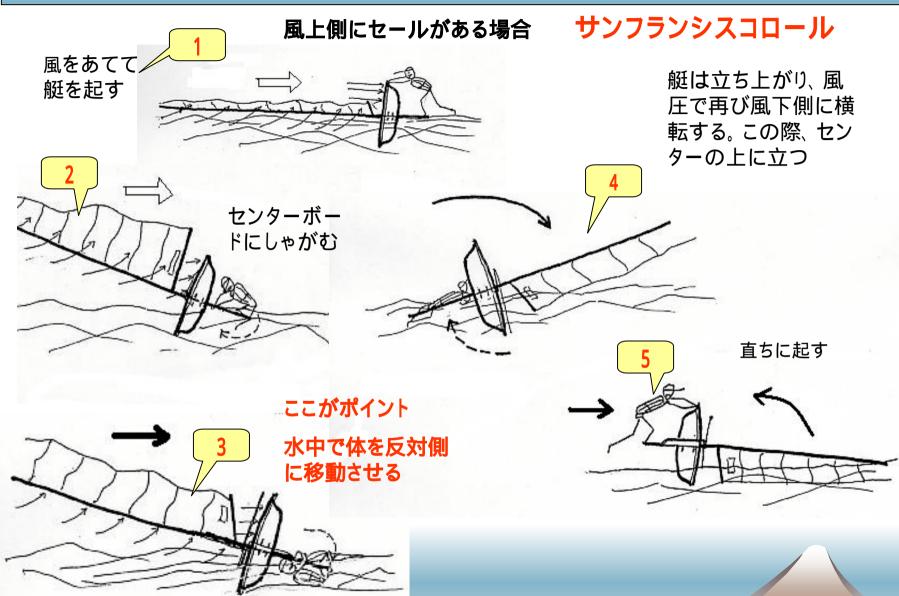


セールが風上の 状態で起す



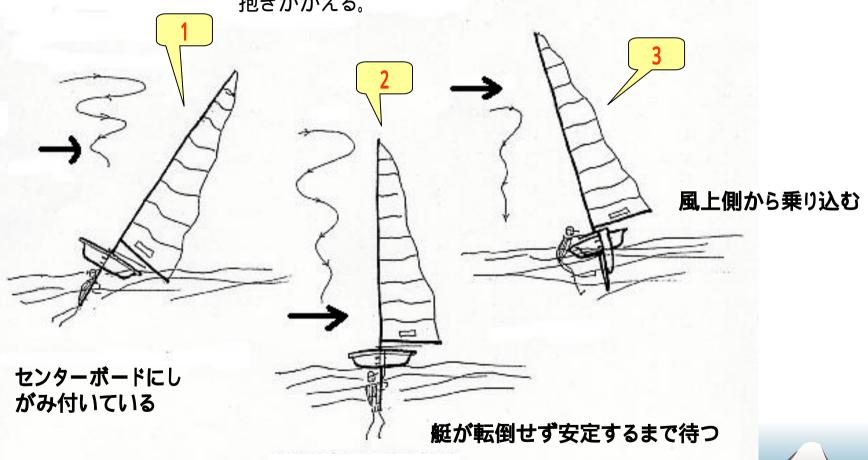


諦めずに、直ぐに風上側に戻り、図1からやり 直す



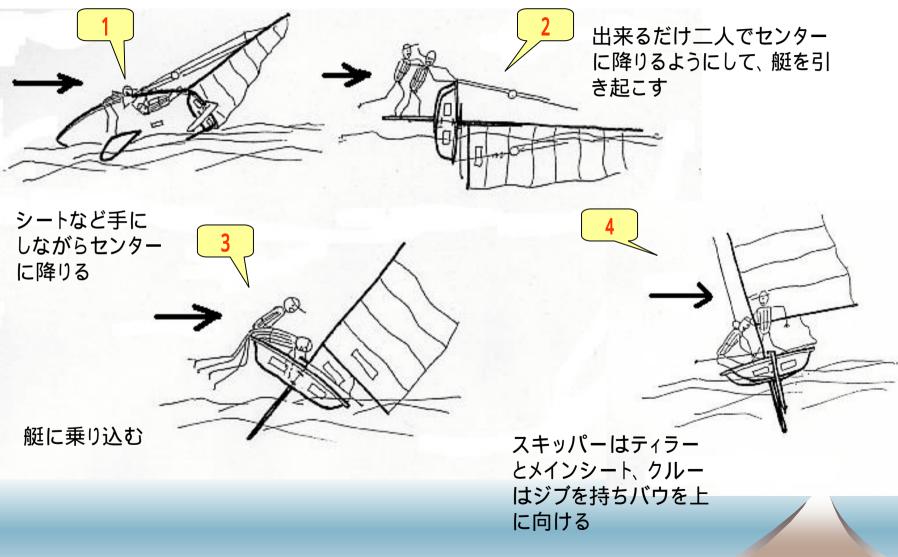
#### 風上側にセールがある場合 振り子式 風が若干弱い時に有効

サンフランシスコロールの 2 の状態からセンターボードを 抱きかかえる。



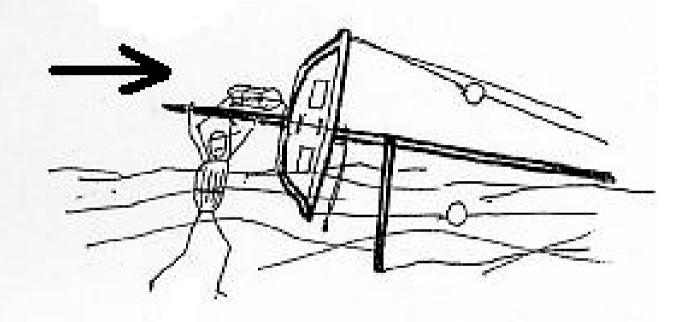
# ツーマンボート (トラピーズ艇)

#### 風下側にセールがある場合

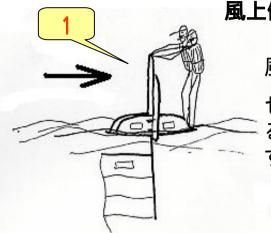


# ツーマンボート (トラピーズ艇)

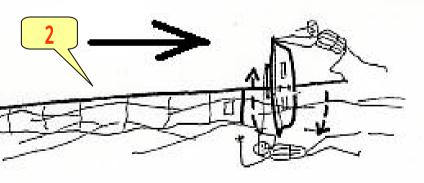
#### 風下側にセールがある場合



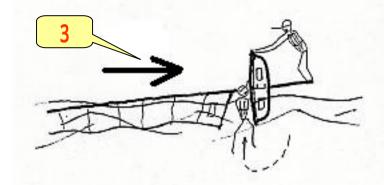
2人とも海に落ちた場合、1人がセンターボードに両手でつかまり、その肩にもう1人が足を掛けて這い上がる。



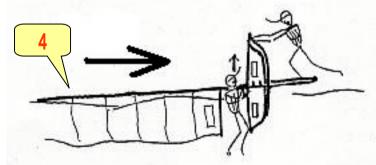
風が強いと完沈状態 セールを風上側に出 るように艇を引き起こ す。



艇が横倒しの状態で、1人が潜って反対側 に行く



反対側に行ったら声を出して確認 注意:スピンを展開していたら仕舞う (シャックルキーなどは艇内の何処かに おいておくとよい)



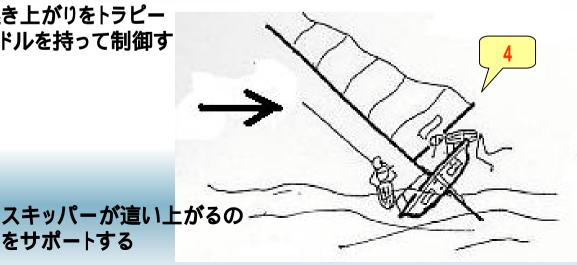
声を掛け合いながらセールに風をいれて持ち上げていく。



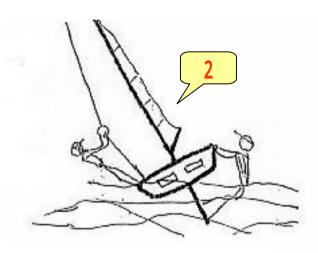
- 1.トラピースハンドルを持つ2
- .トラピーズリングはかけない
- 3.体の浮力を利用しマストを押し上げる
- 4. 艇が起き上がるときデッキに足をかける

[の起き上がりをトラピー ハンドルを持って制御す

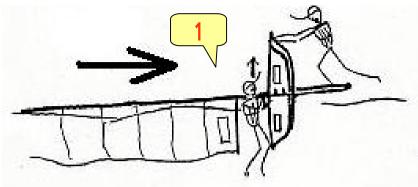
をサポートする



スキッパーは体の浮力を 使って反対に倒れるのを 防ぐ



艇の起き上がりをトラピー ズハンドルを持って制御する



- 1.トラピースハンドルを持つ2
- .トラピーズリングはかけない
- 3.体の浮力を利用しマストを押し上げる
- 4. 艇が起き上がるときデッキに足をかける



### バウを風上に向ける場合

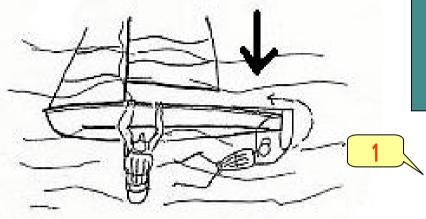
- <mark>1</mark> 1人がバウにつかまりシー アンカーとなる
  - 2 徐々にバウが風上に立つ
  - 3 バウが風上に立ったら艇を起す
  - 4 バウにつかまっていた 者をトランサムかサイ ドデッキから引き上げ る

#### 注意点

小さな艇でないと風に立ちにくい。 起こすのに時間がかかる

### ツーマンボート (トラピーズ艇)

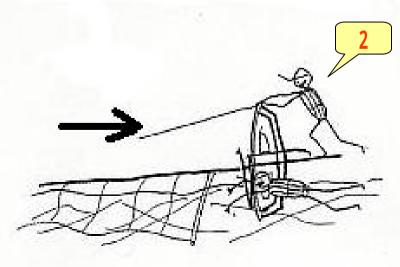
### 反対の舷への移動方法



反対の舷へ水中を潜って移動するのに 抵抗がある場合、まず二人で艇を横に する。

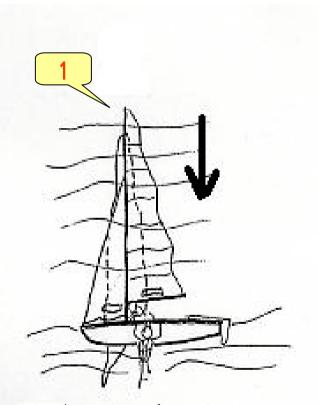
トランサムの後ろを通って反対舷に移動する。

艇から離れないように、舷やシートを 持って移動すること。



1人が反対舷に移動する時、もう1人はマストが水中から出ないようにバランスをとる。

### スピンの回収



スピンをアップしたまま沈をした場合。 スピンネーカーを艇のアップ前に回収し ておく

> スピンネーカーを揚げたま まで艇を起そうとすると、ス ピンネーカーが風をはらん で艇が安定しない。

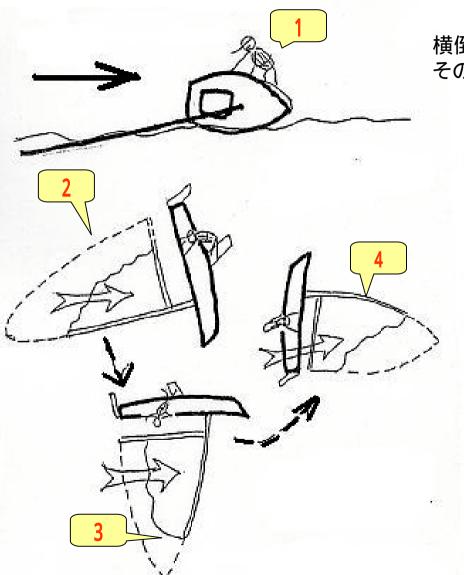
マストに絡むこともある。

1人がセンターボード上

他の1人がスピンを取り込む。スピンハリヤードのカムを外すこと。

センターボードにいる者も手伝うこと

#### 風の力を使って艇を回転させ、風上起しをする方法

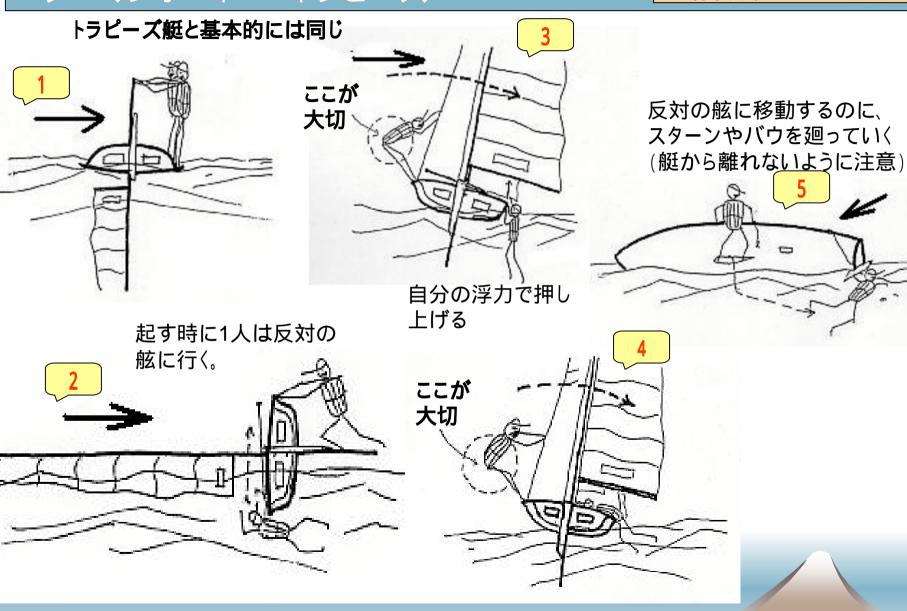


横倒し状態でバウが少し風下を向いている場合、 そのまま少し待機する。

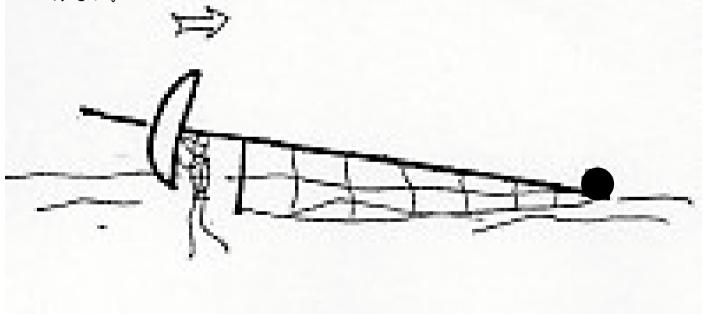
2 3

スターン寄りに体重を掛けるとユックリ艇体は回転し始める。

風にたいしてここまで回転したら風 上起しに入れる。



- マストトップに浮力体をつけると完沈状態にならない。
- 初心者には安心。 完沈状態にならないから
- 浮力を付けすぎないこと
- 完沈しないので、万一艇から離れてしまうとかなりの速度で艇は流されるから、追いつけない。



## 曳航方法

救助艇の注意 : 被救助者を自艇のスクリューに巻き込まないこと。

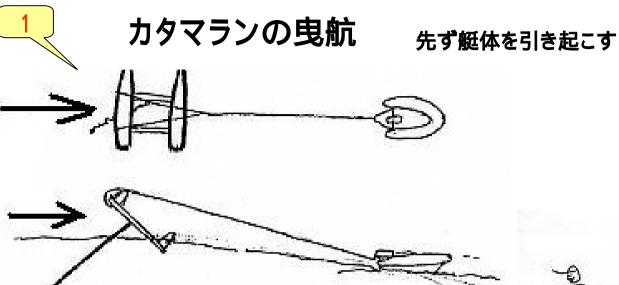
曳航ロープ: 荒天では流れたロープがプロペラに巻きつきやすいので注意

救助艇内で輪になったロープには絶対に足を入れないこと。

艇を曳航する時は、5艇身以上の長さの曳航ロープを用意する。

曳航ロープはディンギーのマストに結ぶ

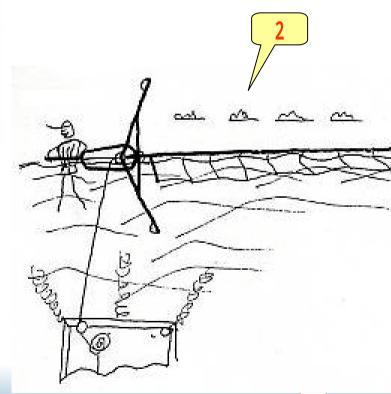
センターボードは引き上げる (船底から少し出しておく)



### モスの曳航

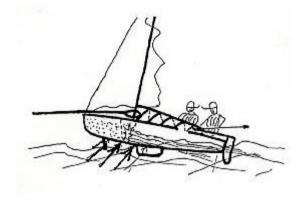
マストの根元にロープを結ぶ。横にしてユックリ

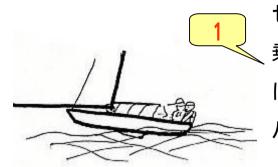
曳航する。又は艇を立たして救助艇に横抱きにして運ぶ(ウイング部を救助艇で持つ)



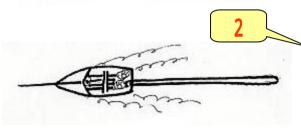
### ラダートラブルの艇の曳航

### 水船の曳航





センターボードを揚げる。 乗員はトランサムギリギリ に乗る。スターンを沈め、 バウを上げる



長いロープを流す

ハルの水が出ない時は艇内のバルクヘッドを破ることがあるので要注意。乗員は 後ろに乗る。

救助艇は舵効きが悪くなる。

